

危機管理室



危機管理室長
仙道 かほる

令和3年度の振り返り

新型コロナウイルス感染症は令和3年度も感染拡大を続け、医療提供体制は危機的な状況が続いていました。危機管理室は令和2年度に引き続き東京都内医療機関をはじめ福祉施設への支援、看護職員の広域派遣調整、感染拡大防止策の最新情報発信、看護職への相談対応などを実施しました。これに加え令和3年度においては、国を挙げたワクチン接種への取り組みに協力し、協会が参画した「東京ワクチンチーム（TVT）」における支援を一手に担い、協会全体の動きを統括し、ワクチン接種に必要な看護職確保や看護師派遣、ワクチンセミナーを開催するなど、感染症対策を最優先としてさまざまな事業に取り組んでまいりました。

災害支援関連では、「東京都看護協会災害支援要綱」第4版を発行しました。災害時支援ネットワークシステムや様式を見直し刷新しました。

また、オンライン面会支援事業は、新型コロナウイルス感染症対応の影響で続いている面会制限により患者へ及ぼす影響を鑑み、看護職の立場から現場を支援する目的で実施しました。この取り組みをきっかけに、患者、家族にとっての「面会」の意義、効果、それを通して看護の目的、目標を考え直すきっかけになることを期待しています。

令和4年度も引き続き機動力を発揮して、感染症や災害支援などの緊急時に看護職や都民の皆さまの安心と安全の礎となれるよう活動してまいります。

事業概要

- BCPの策定、運用及び実施に関すること
- 防災対策に関すること
- 災害備品の管理に関すること
- 会館の維持管理、修繕に関すること
- 新型コロナウイルスに関すること
- 前各項に掲げるもののほか、危機管理室が所掌することが必要な業務に関すること





■ 主な取り組み

1 新型コロナウイルス感染症対策

- ・新型コロナウイルスワクチン接種促進
- ・医療施設・宿泊療養施設への看護師派遣
- ・新型コロナワクチン接種業務に携わる潜在看護師へワクチン接種を実施
- ・東京商工会議所ワクチン共同接種に看護師派遣
- ・ワクチン接種を担う歯科医師向けの実技研修実施
- ・東京都内外のクラスター発生施設への看護職員応援派遣調整
- ・感染管理認定看護師及び看護管理者による訪問指導及びアドバイス
- ・精神看護専門看護師によるメンタルサポート
- ・オンライン研修及びウェブサイトでの最新情報配信
- ・東京都内医療機関等医療従事者新型コロナウイルス検査陽性者発生状況調査

2 感染対策指導者養成研修

新型コロナウイルス感染症発症の中心である東京都内において、即戦力として活躍できる人材を養成する。

3 災害支援ナース事業

- ・災害支援ナースの登録・更新
- ・災害時の派遣
- ・災害支援ナース更新研修
- ・災害支援ナース派遣調整訓練

■ 令和4年度主な事業計画

- 医療安全管理者養成研修
- 災害支援ナース事業
- 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・東京都感染対策リーダー養成研修事業（東京都受託事業）
 - ・障害者支援施設等の感染防止対策のための専門的相談・支援事業（東京都受託事業）
- 防災対策の整備
- 施設の貸与事業
- 建物維持管理



新型コロナウイルス感染症対応実績

1 新型コロナウイルス感染症「応援派遣ナース」

4月 宮城県

4月5日～16日 仙台市立病院 4名

5月 大阪府

5月3日～11日、9日～17日 大阪府

宿泊療養施設支援 2名

5月3日～21日 大阪コロナ重症センター 1名

令和4年1月 沖縄県

沖縄県の宿泊療養施設への職員派遣調整

1月16日～29日 2名

1月30日～2月12日 2名

2月13日～26日 1名

2 ワクチンセミナー

新型コロナワクチン実技セミナー

「安全なワクチン接種 実技講習」 対象：潜在看護師

4月6日～28日 計21回開催 修了者 405名

5月5日～15日 計19回開催 修了者 531名

5月26日 町立八丈病院・三宅村中央診療所 修了者 12名

5月27日 三宅村中央診療所 修了者 4名

5月27日 日本看護協会、日本看護連盟

計3回開催 修了者 70名

歯科医師向け「ワクチン接種 実技講習」

(e-ラーニング修了者)

6月 3日 127名

6月 4日 54名

6月23日 147名

6月28日 148名

7月12日 87名

7月13日 70名

7月19日 106名

7月20日 76名

計 815名

3 東京ワクチンチーム (TVT)

東京ワクチンチームにおける東京商工会議所のワクチン接種看護師業務の統括業務を実施

・ワクチン接種実務、職員派遣及び非常勤職員の採用・派遣・マニュアル作成、連絡調整 など

7月8日～ 看護師1日8名派遣

8月9日～ 看護師1日10名派遣

3か月合計580名派遣

9月30日終了 約1.8万人へ約3.6万回接種

4 施設支援

4月 クリニック 1件

7月 有料老人ホーム 1件

9月 病院 1件

有料老人ホーム 1件

児童養護施設 1件

10月 特別養護老人ホーム 1件

11月 障害者福祉センター 1件

特別養護老人ホーム 1件

1月 通所授産施設 1件

障害者支援施設 1件

5 自治体支援

8月 新宿区保健所

自宅療養者への電話での健康観察 18日間

2月

墨田区臨時医療施設に関わるスーパーバイザー委託
(令和4年2月16日～3月31日)



危機管理室
菊地 美貴
係長

渡邊 千香子
専務理事

危機管理室
仙道 かほる
室長

感染対策委員会
感染管理認定看護師
浅野 恵子
委員

ROUND
TABLE
02

危機管理室 座談会

危機管理はこれからの最重要課題 時代の要請に応えるためにやるべきこと

東京都看護協会の会館施設が西新宿に移転した平成31年に新設された危機管理室。災害支援ナースの養成や、都内医療機関への感染対策の実施、東京都内外の医療提供体制確保などを目的に活動を行っています。また、令和2年4月1日に「新型コロナウイルス感染症対策プロジェクトチーム」を立ち上げ、危機管理室が中心となってさまざまな活動を行ってきました。

ワクチン接種支援や、感染対策に強い看護師 の育成に力を注いだ1年

渡邊：まずは危機管理室室長の仙道さんから、令和3年度の危機管理室の活動についてお話しいただきます。

仙道：前年度から引き続き、令和3年度も新型コロナウイ

ルス関連の活動がメインでした。

ワクチン接種が始まり、ワクチンに関するセミナーや手技に関する研修を実施し、東京都医師会、東京都歯科医師会、東京都薬剤師会、東京都看護協会の四師会による「東京ワクチンチーム」設置を受け、ワクチン接種会場へ看護師を派遣したほか、院内クラスターが発生した施設へ

部門新設後、新型コロナウイルス感染症が発生
危機管理室があったからこそ迅速な対応ができた

——— 渡邊 千香子 専務理事



の人的な支援も行ってきました。中でも感染対策に強い看護師を養成する「感染対策指導者養成研修」に力を入れてきました。

渡邊：東京都看護協会が実施してきた「感染対策指導者養成研修」の概要についても教えてくださいませんか。

仙道：「感染対策指導者養成研修」は、200床未満の中小規模施設の多くで、認定看護師が在籍していないため感染対策に困っているという声を受け、1人でも多くの看護師に感染対策の基礎を学んでもらうことを目的に令和2年度から始めた研修です。

現場ですぐに役立つということで大変好評であったことと、まだまだ感染状況が落ち着いていなかったこともあり、令和3年度も引き続き実施しました。定員100名のところ500名超の応募をいただき、定員を200名に増やして実施したという経緯があります。

浅野：令和3年度の研修については、刻一刻と変化するさまざまな状況を受けてオンデマンド用の研修動画を撮り直したり、新しい情報を加えたり、内容をアップデートしてプログラムを構成しました。研修前にはオンラインでキックオフセミナーを行い、受講者の皆さんの状況を伺う機会を持ったのも前回と違う点です。研修はオンデマンドで行い、最後にまとめとしてZoom（ビデオ会議システム）を活用してグループワークを行いました。

渡邊：感染拡大が最も広がった第5波のタイミングと重なり、大変でしたね。事務局として参加された菊地さんはいかがでしたか。

菊地：現場で働く看護師さんはネット環境もさまざまで、Zoomの操作に不慣れな方も多く、事前にZoom研修を行ってグループワークに備えていただきました。研修開始当初、事務局側は出席確認に手間取ったり、受講者さん側

はインターネット環境が不安定でログアウトしてしまったりということもありましたが、個々にサポートしながら研修を進めていきました。

皆さん初めてのオンライン研修で緊張していましたが、慣れてくるとグループワークなどに積極的に参加されました。

令和4年度は東京都との受託事業として
感染対策のリーダーを養成

渡邊：受講者の皆さんの反応はいかがでしたか。

仙道：今回、皆さんが働いている施設の感染対策を話し合うプログラムを企画したのですが、ほかの施設の取り組みを聞きながら、自分が働く施設で活かせることはないか考える機会になり、意見交換することができてよかったという声を多くいただきました。

浅野：そうですね。これから職場で感染対策の指導者としての役割を担う決意をされる方も多かったように感じます。修了後のアンケートにも「普段からきちんと感染対策や予防策をすることの大切さを学んだ」と書かれていて、私たちが意図したことが伝わってよかったと思いました。

渡邊：オンライン研修は苦労も多かったと聞いていますが、非対面でも他施設の方と意見交換ができる場になってよかったですね。次年度も研修は開催されるのでしょうか。

仙道：この研修は受講者からの評価も高く、日本看護協会や他の協会からも注目されており、継続して実施したいという思いはありました。ただ、これまでは、多くの方々からのご寄附を活用して受講料を徴収せずに研修を実施することができたのですが、財源の問題などもあり、今後は有料



常に緊張の毎日だったが
さまざまな支援を通して、求められていることが明確になった

——— 危機管理室 仙道 かほる 室長



受講対象が広がることで
他職種で感染対応ができるようになる

——— 危機管理室 菊地 美貴 係長

研修に変更にするかなど、さまざまな議論や検討を重ねました。

当協会より東京都に研修継続の必要性などについて要望書を提出し、令和4年度は東京都の受託事業として研修が実施できることになりました。もちろん受講料は不要です。

渡邊：危機管理室のメンバー一人ひとりが、さまざまな努力をしながら研修を実施してきたことも評価されたのではないのでしょうか。今後、受託事業になることで変化することはありますか。

菊地：現在、東京都の担当者と詳細を検討している段階ではありますが、名称を「感染対策リーダー養成研修」と変更し、これまでの内容を踏襲しつつ、30時間前後の研修時間で感染対策の基本について学ぶことが決まりました。また、これまでは看護師のみが対象でしたが、今後は都内の医療機関に勤務する医療従事者に範囲を広げることで、薬剤師や臨床検査技師など多職種の方の受講が可能になります。

危機管理室が実施した研修が、
看護師の新たな道を切り拓ききっかけに

渡邊：最後に、令和3年度を振り返ってひと言ずつお願いします。

仙道：私はいつクラスター発生や緊急支援を要請されるか……と電話が鳴るたびにドキドキしていました。県外派遣など迅速に対応しなければならないことも多く、常に緊張していた1年でしたが、ようやく落ち着いてきてホッとしています。

菊地：今回、ワクチン接種をきっかけに潜在看護師の方が東京都看護協会にアクセスしてくださり、さらに他の研修に興味を持って参加してくださった方もいました。改めて危機管理室が企画した研修が、コロナ禍という大変な状況の中で看護師さんたちのモチベーションを上げるきっかけになっていることを実感しています。

オンラインでの研修実施についてはまだまだ課題もあるので、企画はもちろん受講者の方へのサポートなど、これからもさまざまな工夫をしていきたいと思っています。

浅野：私にとっては、感染対策指導者養成研修の企画に携われたことが最も大きな出来事でした。実際にクラスターが発生した施設へ支援に行った際、基本的な感染対策を十分に理解していない看護師が意外に多いことを改めて実感し、この状況をなんとかしたいという思いが原動力にもなっていました。

受講者の中には、研修修了後にさらに学びたいと認定看護師の養成学校を受験された方が複数名いると聞いて、改めて当協会ですばらしい研修を実施することができ、誇りに思います。最後に研修の実施報告書を作成し、形に残せたこともうれしかったですね。

渡邊：今回のワクチン接種では「自分でお役に立てることがあれば」と手を挙げてくださる方が本当にたくさんいて驚きました。困難なことも多くありましたが、危機管理室では現場を支援する立場として、各施設にどんな問題があり、どんな支援が必要なのか、外部アドバイザーと連携をしながら役割を發揮できたのではないかと思います。

令和4年度も引き続き、機動力をもって活動していきたいと思っています。皆さん、本当にありがとうございました。

感染管理認定看護師として
基本的な感染対策の重要性を実感した

——— 感染対策委員会 浅野 恵子 委員

